

- 問1 平塚らいてうが雑誌『青踏』で発表した宣言において、女性を本来の「太陽」ではなく、他人の光で輝く「月」のような存在であると例えた背景にある、彼女の主張として最も適切なものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 女性は家庭を守る存在として、月のように家族を優しく照らす役割に専念すべきだと説いた。 | 2. 女性も兵士として戦場に赴き、国家のために尽くすことが太陽のように輝く道であると主張した。 | 3. 女性が男性に従属し、自分自身の意志や能力を発揮できていない現状を批判し、自立を求めた。 | 4. 欧米の進んだ文化を模倣することで、日本女性の外見を華やかに変える必要があると訴えた。 |
|---|---|--|---|
- 問2 大正時代におけるマスメディアの発達、当時の日本の社会運動や政治に与えた影響について述べたものとして、背景と結果の因果関係が正しいものはどれですか。 (2026年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 情報の伝達速度が遅くなったことで、地方と都市の情報格差が拡大し、大衆が政治参加をあきらめて趣味や娯楽のみに没頭する社会が形成された。 | 2. 総合雑誌の普及やラジオ放送の開始によって、都市の大衆が政治や社会の情報を共有するようになり、普通選挙運動などの大正デモクラシーの動きを後押しした。 | 3. マスメディアの発達によって伝統的な文化への関心が急速に高まったため、欧米の民主主義思想を排除しようとする保守的な運動が全国で激化した。 | 4. 政府がマスメディアを完全に独占・管理したため、大衆は政治的な判断力を失い、中江兆民らが進めた自由民権運動の成果はすべて消滅してしまった。 |
|---|--|--|---|
- 問3 大正時代、護憲運動や普通選挙運動が高まるなかで、吉野作造が提唱した思想は何と呼ばれますか。大日本帝国憲法のもとで、主権の所在を問わずに民衆の意向を政治に反映させることを重視した考え方を選びなさい。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|
| 1. 社会主義 | 2. 自由民権運動 | 3. 天皇機関説 | 4. 民本主義 |
|---------|-----------|----------|---------|
- 問4 大正時代の社会情勢を記した年表において、労働組合の結成や社会運動の活発化とともに、政治体制が「憲政の常道」へと変化した背景について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 国民の政治参加への関心が高まり、衆議院の支持を基盤とする議院内閣制に近い仕組みが求められたため。 | 2. 軍部の影響力が強まり、特定の政党に権力を集中させることで挙国一致の体制を作る必要があったため。 | 3. 世界恐慌に対応するため、すべての政党を解散して一つにまとめ、強力な指導体制を構築するため。 | 4. 明治以来の藩出身者による政治を維持するために、天皇の任命権を強化する仕組みが整えられたため。 |
|---|--|--|---|
- 問5 日中戦争が長期化する中、1940年（昭和15年）に近衛文麿内閣のもとで行われた政治的な動きとして正しいものを選んでください。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 国民の自由を制限し、既存の政党が解散して、戦争協力のための巨大組織である大政翼賛会に統合された。 | 2. 内閣総理大臣を国民の直接投票で選ぶ制度が導入され、政党の力が強まった。 | 3. 25歳以上のすべての男性に選挙権を認める普通選挙法が制定され、政党政治がさらに活性化した。 | 4. 自由民権運動の流れを汲む自由党と進歩党が合併し、保守合同による自由民主党が誕生した。 |
|---|--|--|---|
- 問6 1920年代のある小作人の家計収支を記した資料によると、年間の収入が85円であるのに対し、支出は111円となっており、家計は赤字状態でした。また、支出の内訳を見ると、小作料が46円と最も大きな割合を占めており、肥料代や農具代を上回っていました。このような状況下で、農村において組織化された運動の目的として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. 地主に対して、不足している農機具を無償で提供させること | 2. 政府に対して、生活費の赤字分を補うための補助金を一律に支給させること | 3. 地主に対して、不作の年に備えて小作料の引き上げを提案すること | 4. 地主に対して、支出の大きな負担となっている小作料の引き下げを求めること |
|--------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--|
- 問7 第一次世界大戦前の国際情勢において、イギリス、フランス、ロシアの3カ国が「三国協商」を形成し、互いに協力関係を強めた主な理由として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. オーストリア・ハンガリーがバルカン半島での領土をすべて放棄し、ドイツとの同盟を解消したため。 | 2. 統一後のドイツが軍備拡張や植民地獲得といった「世界政策」を推進し、周辺国にとって脅威となったため。 | 3. アメリカ合衆国の急速な経済発展に対抗するため、ヨーロッパ諸国が関税同盟を結ぶ必要があったため。 | 4. ロシアで社会主義革命が起こり、周辺の君主制国家が共同で革命の波を阻止しようと考えたため。 |
|---|--|--|---|
- 問8 大正時代、政治の目的は民衆の利益に置くべきであり、民衆の意向に従って政治を行うべきであるとする「民本主義」を提唱し、大正デモクラシーの理論的指導者となった人物は誰ですか。 (2024年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 幸徳秋水 | 2. 中江兆民 | 3. 田中正造 | 4. 吉野作造 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問9 1914年の第一次世界大戦の勃発から1920年代前半にかけての日本の外交について、古いものから順に正しく並べたものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 第一次世界大戦への参戦 → ワシントン会議への出席 → 中国への二十一か条の要求 | 2. 中国への二十一か条の要求 → 第一次世界大戦への参戦 → ワシントン会議への出席 | 3. 第一次世界大戦への参戦 → 中国への二十一か条の要求 → ワシントン会議への出席 | 4. ワシントン会議への出席 → 第一次世界大戦への参戦 → 中国への二十一か条の要求 |
|---|---|---|---|
- 問10 1911年に平塚らいてうらが創刊した文学雑誌で、創刊号の冒頭に「元始、女性は太陽であった」という言葉を掲げ、女性解放を強く唱えた雑誌の名称を選びなさい。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------------|----------|---------|
| 1. 『青踏』 | 2. 『学問のすゝめ』 | 3. 『若菜集』 | 4. 『舞姫』 |
|---------|-------------|----------|---------|
- 問11 第一次世界大戦後のアジアや日本で起こった民衆運動の組み合わせとして、正しいものを次の記述から選びなさい。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 中国では、ガンディーが中心となって五・四運動を指導し、インドで起こった社会主義運動と連携して帝国主義に反対した。 | 2. 朝鮮では、日本の植民地支配からの独立を求めて三・一独立運動が起こり、日本でも大正デモクラシーと呼ばれる民主主義を求める動きが広まった。 | 3. 日本では、普通選挙の実施を求める三・一独立運動が活発になり、これに呼応して朝鮮でも大正デモクラシーの影響を受けた運動が起こった。 | 4. インドでは、マルクスの指導のもとで非暴力・不従順運動が展開され、イギリスの植民地支配に対して組織的な抗議が行われた。 |
|---|--|---|---|
- 問12 1912年に、藩閥や軍部の支持を受けて成立した桂太郎内閣に対し、「閥族打破・憲政擁護」をスローガンとして起こった、憲法にもとづく政治を求める運動を何といいますか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|------------------|------------|------------|
| 1. 自由民権運動 | 2. 足尾銅山鉱毒事件の反対運動 | 3. 第一次護憲運動 | 4. 第二次護憲運動 |
|-----------|------------------|------------|------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 女性が男性に従属し、自分自身の意志や能力を発揮できていない現状を批判し、自立を求めた。	「月」という比喻は、自ら光を放たず太陽の光を反射するだけの存在、つまり当時の社会制度の中で男性や家に従属し、自分の意志を持ってない女性の境遇を批判的に表現したものです。彼女は女性が本来持っていたはずの、自ら輝く「太陽」のような生命力と人間性を取り戻すべきだと主張しました。
問2	答え 2 総合雑誌の普及やラジオ放送の開始によって、都市の大衆が政治や社会の情報を共有するようになり、普通選挙運動などの大正デモクラシーの動きを後押しした。	大正時代、総合雑誌や新聞の発行部数が増大し、さらにラジオ放送が始まったことで、それまで一部の政治家や知識人に限られていた情報が大衆へと広く行き渡るようになりました。これにより、国民の間で政治への関心が高まり、普通選挙の実現を求める運動や政党政治を求める「大正デモクラシー」の機運が醸成される大きな要因となりました。
問3	答え 4 民本主義	吉野作造が唱えたこの思想は、大正デモクラシーの理論的な支柱となりました。天皇主権を定める大日本帝国憲法の枠組みを維持しながらも、政治の目的を民衆の利福（利益と幸福）に置き、政策決定において民衆の意向を尊重することを主張しました。これにより、普通選挙の実現などを求める運動を後押ししました。
問4	答え 1 国民の政治参加への関心が高まり、衆議院の支持を基盤とする議院内閣制に近い仕組みが求められたため。	大正デモクラシーと呼ばれる社会運動の広がりの中で、普通選挙の実施を求める声や、特権階級による藩閥政治への批判が高まりました。その結果、選挙で選ばれた国民の代表である衆議院の第一党が政治を主導する「憲政の常道」が確立されました。これは国民の声を政治に反映させるための制度的な進歩と言えます。
問5	答え 1 国民の自由を制限し、既存の政党が解散して、戦争協力のための巨大組織である大政翼賛会に統合された。	1930年代後半から戦時体制が強化される中、近衛文麿内閣は「新体制運動」を推進しました。これにより、立憲政友会や立憲民政党といった既存の政党は自ら解散し、挙国一致で戦争を支えるための官製組織である「大政翼賛会」に合流しました。これによって大正時代から続いていた政党政治の歴史は一時的に途絶えることとなりました。
問6	答え 4 地主に対して、支出の大きな負担となっている小作料の引き下げを求めること	当時の小作人の家計において、収穫した作物の約半分近くを納める小作料は極めて重い負担であり、生活を圧迫する最大の要因となっていました。そのため、小作人は団結して地主と交渉し、負担を減らすために小作料の引き下げを要求する運動を展開しました。
問7	答え 2 統一後のドイツが軍備拡張や植民地獲得といった「世界政策」を推進し、周辺国にとって脅威となったため。	19世紀後半に統一を果たしたドイツは、皇帝ヴィルヘルム2世のもとで強引な海外進出や海軍の増強を進めました。これに危機感を抱いたイギリスは、それまで植民地争いで対立していたフランスや、南下政策を進めるロシアと歩み寄り、ドイツを包囲する形で三国協商を成立させました。
問8	答え 4 吉野作造	大正デモクラシー期、吉野作造は主権の所在（天皇か国民か）という憲法上の議論を避けつつ、実際の政治運用において民衆の意向を反映させることを重視する「民本主義」を唱えました。この理論は、当時の知識人や学生に大きな影響を与え、政党内閣の確立や普通選挙の実現を求める運動の柱となりました。なお、中江兆民は明治時代の自由民権運動、幸徳秋水は明治末期の社会主義運動、田中正造は足尾銅山鉱毒事件の解決に尽力した人物です。
問9	答え 3 第一次世界大戦への参戦 → 中国への二十一か条の要求 → ワシントン会議への出席	日本は1914年に日英同盟を理由に第一次世界大戦へ参戦し、翌1915年にはドイツが権益を持っていた中国の山東省の継承などを求める二十一か条の要求を中国政府に突きつけました。大戦が終結した後の1921年には、アメリカの提唱によるワシントン会議に出席し、海軍の主力艦の保有量を制限する軍縮案を受け入れるなど、1920年代の国際協調の時代へと入っていました。
問10	答え 1 『青鞥』	平塚らいてうらが中心となって結成された「青鞥社」から発行された雑誌です。この雑誌は、それまでの社会的な制約から女性を解放しようとする女性解放運動の象徴となりました。島崎藤村の『若菜集』や森鷗外『舞姫』は明治中期の文学作品であり、福沢諭吉の『学問のすゝめ』は明治初期に発表されたものです。
問11	答え 2 朝鮮では、日本の植民地支配からの独立を求めて三・一独立運動が起こり、日本でも大正デモクラシーと呼ばれる民主主義を求める動きが広まった。	第一次世界大戦後の民族自決の意識の高まりを受けて、1919年に朝鮮では三・一独立運動が起こりました。同時期の日本では、政党政治や普通選挙を求める大正デモクラシーの動きが活発化しています。インドの非暴力・不服従運動を指導したのはガンディーであり、マルクスは19世紀の産業革命期に社会主義を唱えた人物であるため、この時期の指導者とする記述は誤りです。また、五・四運動は中国で起こった愛国運動であり、ガンディーが指導したものではありません。
問12	答え 3 第一次護憲運動	明治の終わりから大正の初めにかけて、一部の藩出身者や軍部が政治を動かす「藩閥政治」への批判が高まりました。尾崎行雄や犬養毅らが中心となり、憲法に基づく議会政治を確立しようとするこの運動が展開された結果、桂太郎内閣は退陣に追い込まれました。これを第一次護憲運動と呼び、大正デモクラシーが本格化するきっかけとなりました。